

災害に関する意識調査結果

1 アンケート概要

(1) 目的

国土強靱化や地域防災計画策定の基礎資料として今後の防災施策に反映させるため。

(2) 対象

モニター 276名

(3) 回収数

197件 (回答率71.3%)

(4) 調査時期

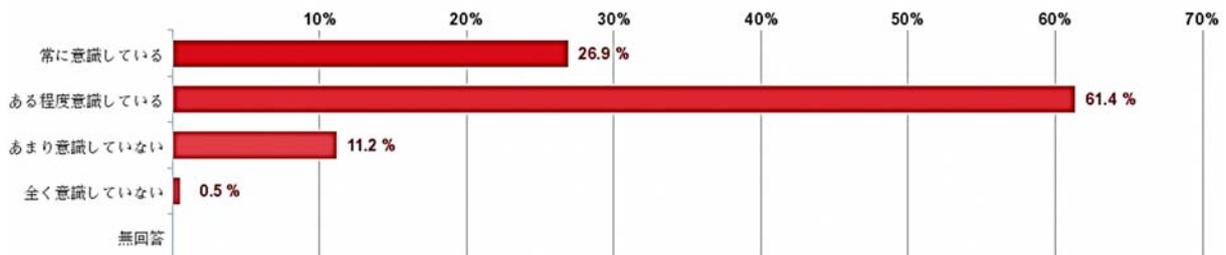
令和2年9月17日(木)～令和2年9月30日(水)

※自由意見については、類似の意見を取りまとめています。

2 アンケート

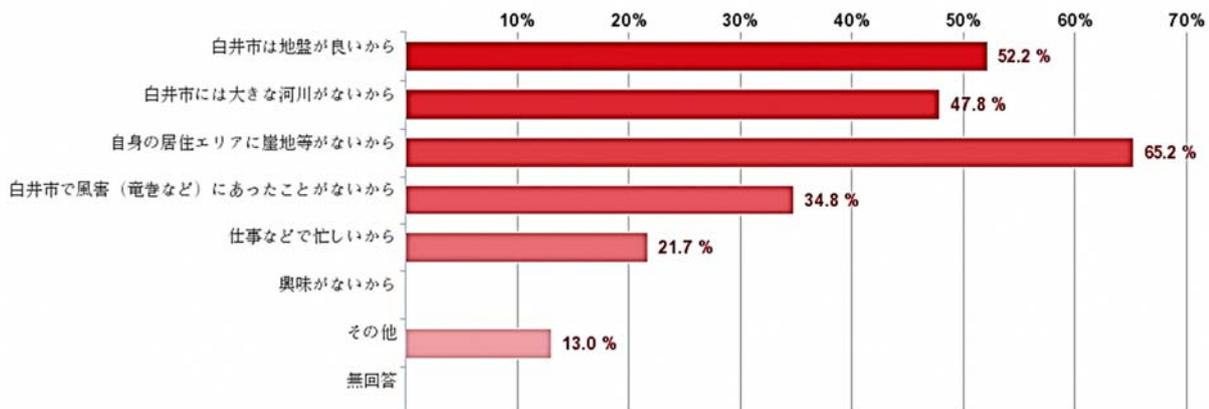
Q1 あなたは、普段から自然災害の発生について、意識していますか。

n=197



Q2 Q1で「あまり意識していない」、「全く意識していない」と回答した方にお伺いします。自然災害への意識がない理由は何ですか。あてはまるものをすべて選んでください。

n=23



【その他】

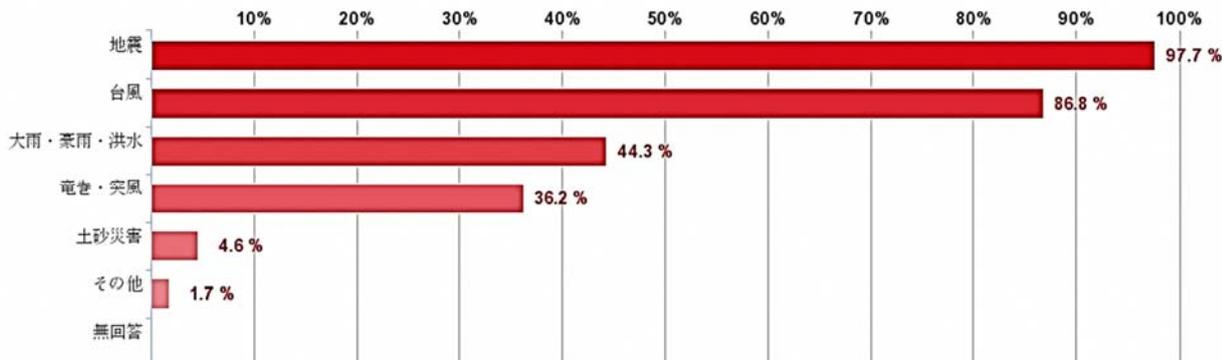
マンションだから。

理由はないです

ほとんど居ない

Q3 Q1で「常に意識している」、「ある程度意識している」と回答された方にお伺いします。特にどの自然災害の発生を意識していますか。あてはまるものをすべて選んでください。

n=174



【その他】

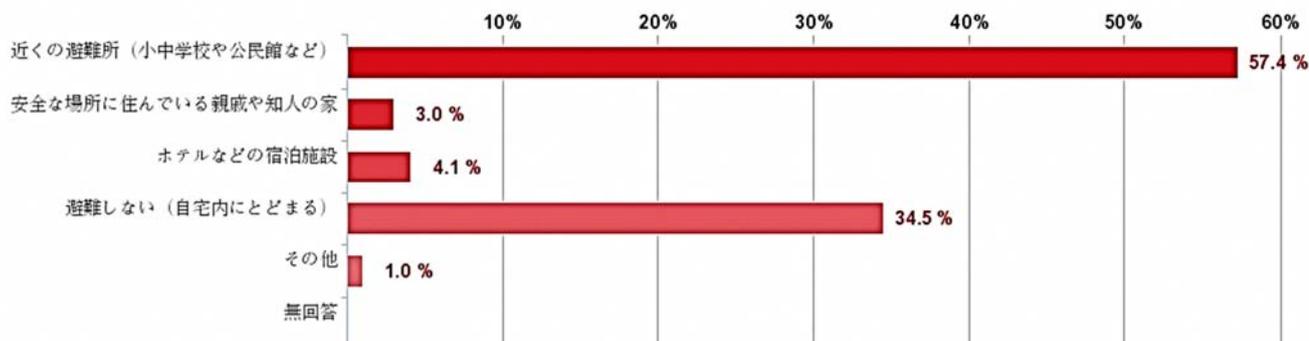
異常気温・高温

停電、断水、火災

大雪、猛暑

Q4 あなたは、避難が必要になった際に、どこへの避難を考えていますか。

n=197



【その他】

職場に出勤しなければならない

その時の状況により判断

Q5 自助（自分の身は自分で守る）、共助（自分たちの地域は自分たちで守る）、公助（市や防災関係機関の活動）について、あなたの考えをお伺いします。

n=197

自助



共助

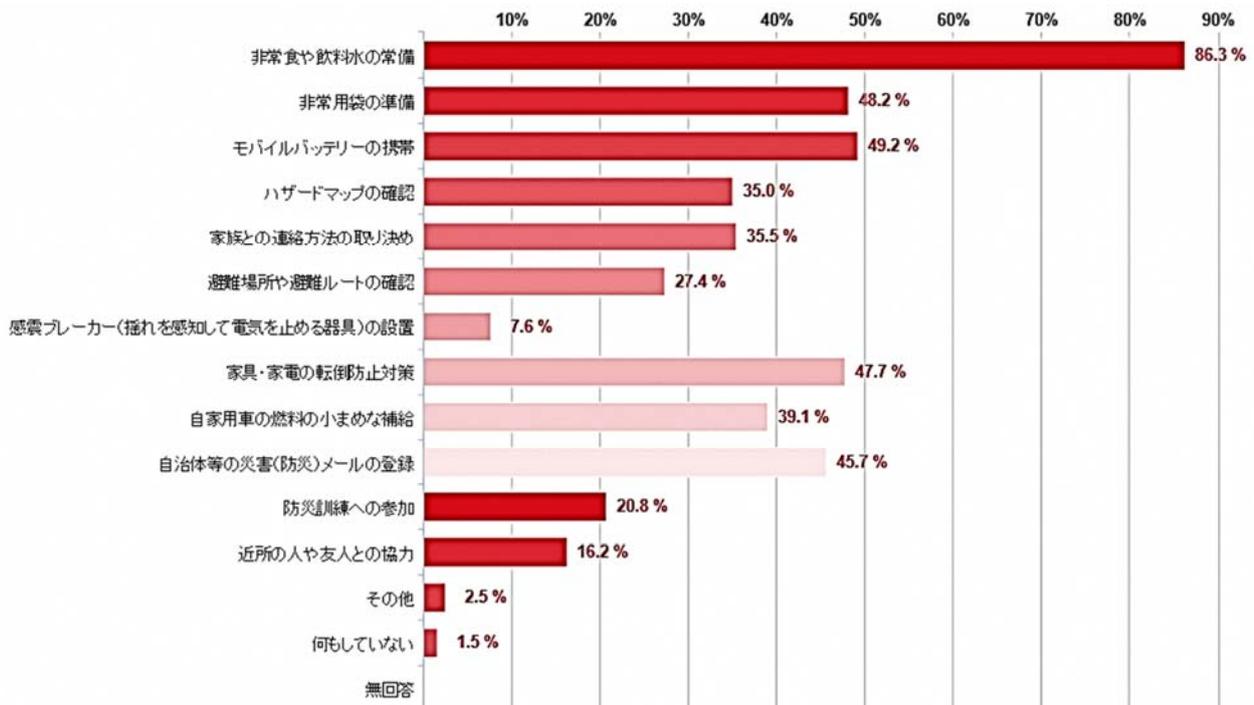


公助



Q6 災害に備えてあなたのご家庭では、災害に対してどのような備えをしていますか。あてはまるものをすべて選んでください。

n=197



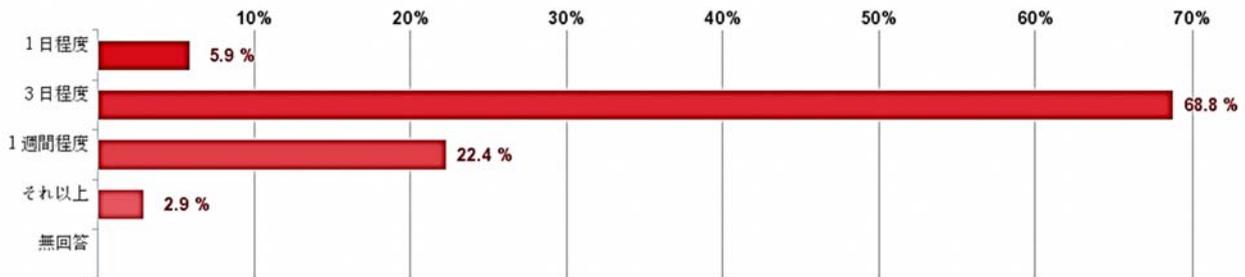
【その他】

蓄電池導入

キャンプ道具の活用

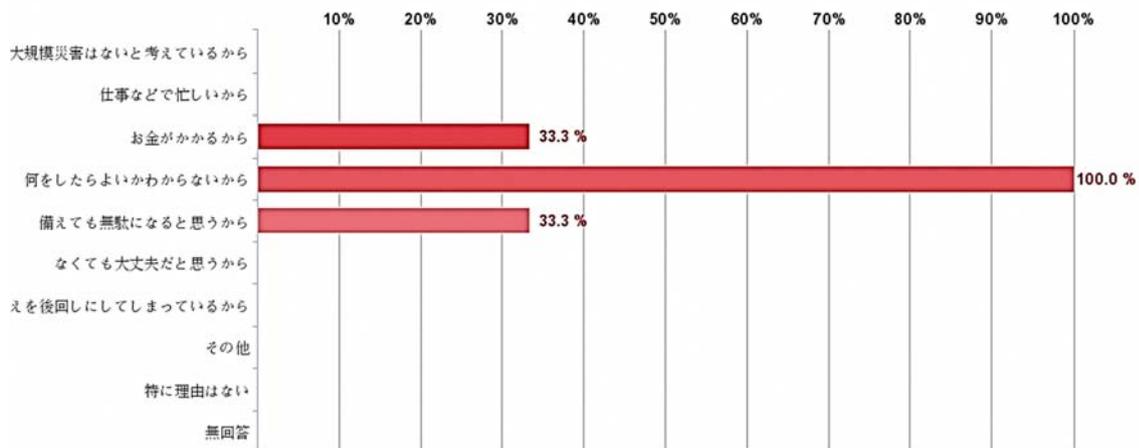
Q7 Q6で「非常食や飲料水の常備」と回答された方にお伺いします。あなたのご家庭で備蓄している非常食や飲料水は何日分ですか。

n=170



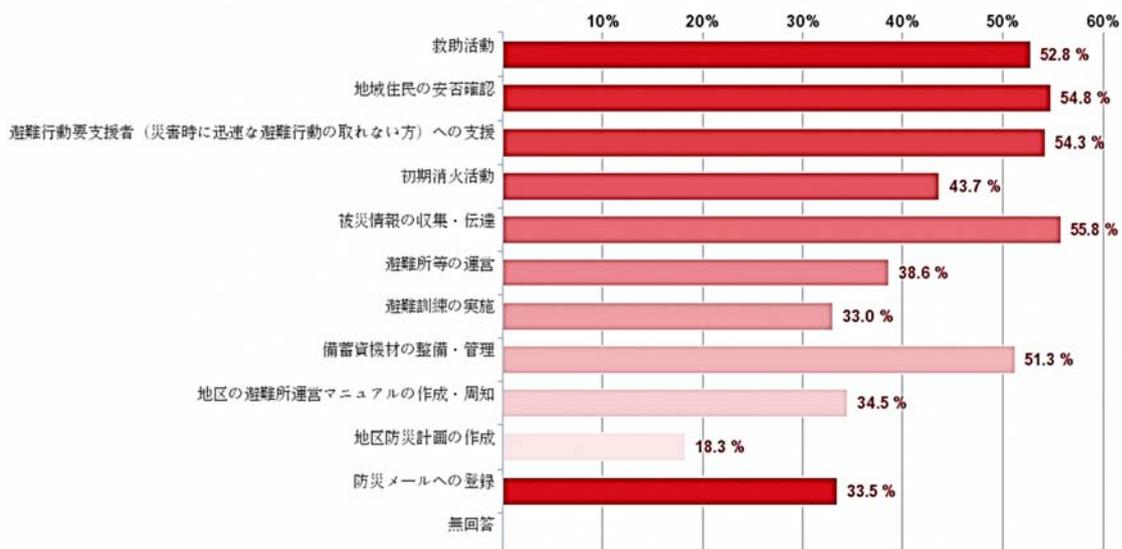
Q8 Q6で「何もしていない」と回答された方にお伺いします。災害への備えをしない理由は何ですか。あてはまるものを3つまで選んでください。

n=3



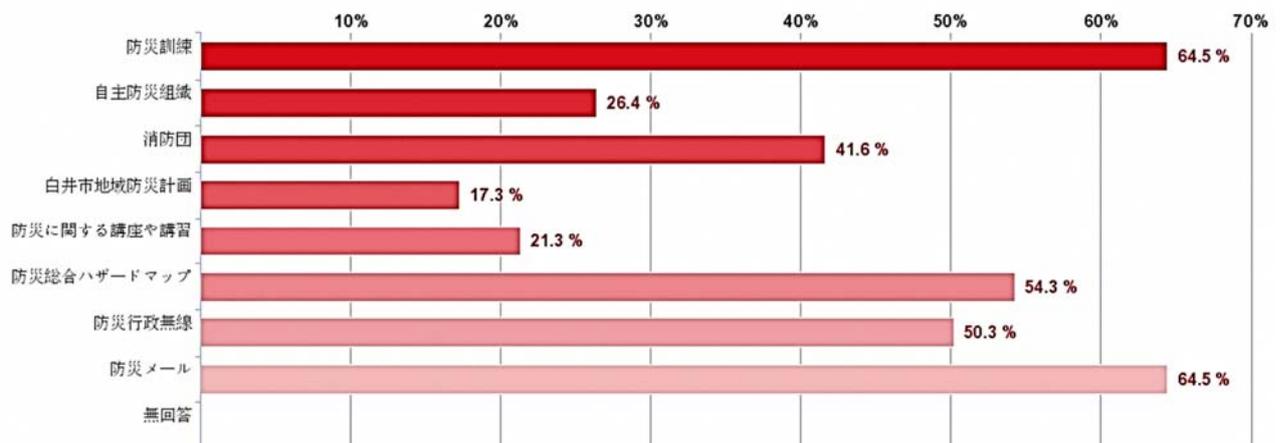
Q9 あなたが、「共助」のために、地域が力を入れるべきだと思う防災対策は何ですか。あてはまるものをすべて選んでください。

n=197



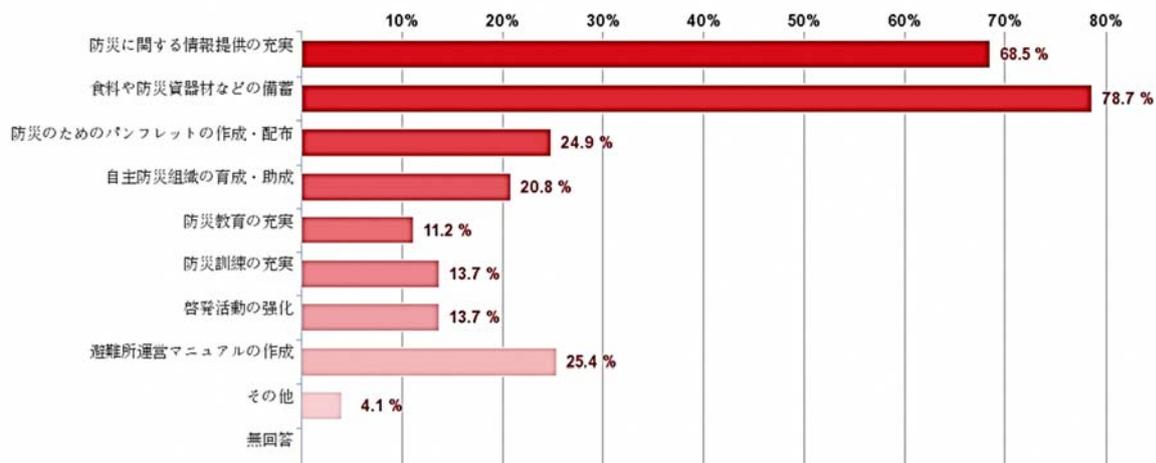
Q10 市では、防災に関して次のような事業や情報提供を行っていますが、あなたが知っている（参加したことがある）ものをすべて選んでください。

n=197



Q11 あなたが、公助として市が力を入れるべきだと考える防災対策は何ですか。あてはまるものを3つまで選んでください。

n=197



【その他】

消防・救急・病院等との連携計画
自家発電設置
各地区の状況、情報を地区経由ではなく、個に対して発信する手段も必要
インフラの安定供給の為に業者との連携
災害時のトイレ環境
コロナやプライバシーに配慮した取り組み
安心できる避難所の設営
避難所の整備。衛生強化、プライバシーの確保、冷暖房機器の充実

Q12 「防災」について、御意見・御要望がございましたら、ご自由にお書きください。

n=48

身体が動くうちは自助を基本としたい。

避難所に代わりホテル借り上げ等考えてほしい。

広報を毎月配布してるんだし、防災についての特集でも組んでください。

私の地区は共助がとても弱いです。 笠井市長も掲げている自助、共助、公助を各自治会長に浸透させて下さい。

地域ごとに起きやすい災害にあわせた啓蒙活動

防災無線の放送が自宅からほぼ聞こえない。何か放送されているな—と思ったら、外に出て少し歩いてやっと聞こえるレベル。防災無線をもう一度聞けるダイヤルがある事は知っているが、災害時の風雨の音の中では恐らく我が家には何も聴こえないと思うので、放送された事もわからないと思う。スピーカーを近くに設置するなど何か対策をして欲しい。

近隣関係の希薄化に伴い非常時の協力関係を強化するのは難しい

避難所運営について、経験者の話を聞いてみたい。

普段から近所付き合いやコミュニティがある地域は、被災時も互助がはたらく。被災時の公的な支援の限界をはっきり明示して、「自分たちの身は自分たちで守る意識」を強く持たせることが大事だと思う。

タイムリーな情報提供、その為の手段の充実と住民への普及強化

被害軽減対策は基本的には自助（共助は機能し難い）に任せ、公助策は復興策に注力すべきと考えます。

実際の災害時には公助は多くは期待できないと思いますが、準備はよろしくお願いします

自治会に対して防災用連絡網整備の支援をしてほしいです。例えばインターネット上での掲示板や連絡手段の提供等。隣の人の電話番号も知らないような時代なので、共助が難しい。

自分の身は自分で守る…位に、備えておく、近隣住民と顔のわかる関係を築いておくことが大事！

トイレ環境、冷暖房環境、避難所での感染症拡大防止策の整備が必要

各地域で防災備蓄品(食料や飲料水など)の充実を図ってほしい。

備蓄している水や食料が、気がつくと賞味期限切れ、ということが多い

市の道路の老朽化が心配。特に国道464号の、ガスタンク前付近の道路のギャップが大きく、大地震が来ると橋げたが落ちないか心配。

・被災者の人命救助（救出作業） ・いち早い避難所の開設と救援物資の提供 ・災害復旧

ペットと一緒に避難できる場所も作って欲しいです。うちは猫がいるので避難はしませんが。

いざとなったら何も出来ないと分かっているので、何かの時の為に、もっと細かな誘導をして欲しい

企業との協定締結での支援強化 →スーパー、工業団地…

「この木が倒れたらこの電線切れるな」という場所を放置している。土地の持ち主の関係は分かるが、そこは行政指導して行政で切らせてもらうなど予防措置をとるべき。

ハザードマップの見直しをして下さい。内水面の氾濫エリアなど 疑わしいところが有る。北総線の陸橋が破損した場合の対応は有るのでしょうか？

昨今の日本は、全国で、いつ、何が起きても不思議でない程の災害が多発しています。個人での防災は必要だが、政府も万博やオリンピックの大臣よりも防災等扱う大臣が必要不可欠だと思います。それにしても、昨年の台風15号の県の対応は目を覆う有様で、森田知事や職員の無能さを全国に広めてしまい、未だに他県から呆れられている状態であるのが、特に恥ずかしい。トップが力を発揮するべきである。他県の知事の活躍に較べられ情けない。ボンクラでない知事が欲しいです。

小学校の避難所の整備を充実させて頂きたい。例として、避難所を体育館だけでなく、教室等を利用し、地域住民が多く避難しても受入れ可能な場所、食料、トイレの確保を希望します。各家庭や自治会も十分検討しているが、昨年のような過去に経験したことがないような災害が発生した場合の住まいの確保、冷暖房・感染症対策等、更なる対策を充実させることができれば、安心・安全な地域づくりに繋がると思います。又、給水車や食料支援物資が最寄りの小学校や公民館等に届けて貰えるシステム作りも必要です。市役所に遠い地域の方や自家用車を持たない方、高齢者や乳幼児を抱えた方々にとっても支援してもらえやすい体制作りの強化の必要性を実感しております。

正直 パンフレット頂いても読まないの費用もったいないです。自治会や町会に出向いて、地区ごとに地区の状況状態に沿った説明会を開催していただいたなら、理解度アップすると思います。

居住しているマンションで自主防災組織を設置しようとしている。必要な支援をお願いしたい。

意見ではないのですが、このアンケートを通して、自分の災害に対する意識が低いなど改めて感じました。今後、家族とも積極的に話し合っていこうと思います。

新型コロナ感染予防対策のため防災訓練が出来なかったが、このまま実施出来ない期間が続くのでしょうか？ちょっと気になりました。

自治会がない地域に対して行政が関与する仕方が不十分。もしくは自治会組織がないと意見を取り入れない傾向にあると感じます。

備蓄品準備の徹底と 感染管理 避難場所の女性に対する配慮は徹底して欲しく思います。性被害が起きない様にして欲しい。

一番の懸念は、貰い事故（災害）です。その際の保障に関する知識。例えば隣の家が壊れて被害を被った場合はどうなるのか？ゴルフ練習場のポールの倒壊が記憶に新しい為。

避難所の空き情報や段ボールベッド、プライバシーの為の仕切りが充分にあって欲しいと思う。停電した時、復旧がいつ頃になるか早く情報が欲しい。以前停電した時、復旧した夜7時位迄何の情報もなく困った。

高齢化の地域が増加。災害発生時には、活発に動ける学生の活用が必須となってきている。

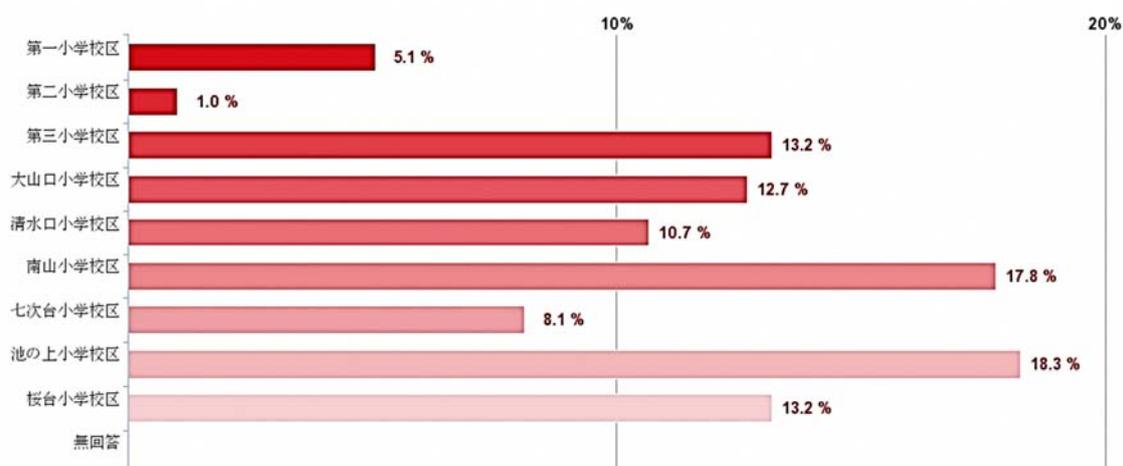
高齢者にとっては防災訓練の場所に行くまでが距離があって参加しにくい。そのような観点から今後は各自治会でやっていくことを是非検討して頂きたい。

以前、自治会で市の防災課の方から防災について説明を受ける機会があったが、金銭的な理由でできないという回答ばかりで、言い訳ばかりで残念な印象しか残っていない。

避難所で使用可能な段ボールベッド、コロナ等の感染症防止・プライバシー保護のためのパーティションの用意
コロナ過避難所運営マニュアルを整備し、避難者が戸惑わないような要領書を作成しておく必要がある。又避難者同士を仕切るカーテン、段ボールベッドなどの資機材も備蓄が必要。
知的障害のある人が安心して利用できる避難所を用意してほしい。
自助・共助・公助のフレーズは、市民やボランティアが使うのであって、行政側が使うべき文言ではないと思います。Q11の「その他」に書きましたが、現在避難所となる小学校の体育館で冷暖房はどこまで整備されているのでしょうか（あまり整備されていないのではないのでしょうか）。また避難所となった際のプライバシーや衛生管理は大丈夫でしょうか。そのあたりから防災の強化を図ってはいかがでしょうか。
避難勧告や避難指示など言葉の表現が非常に分かりにくいので、子供から、年寄でもわかる表現に変えていただきたい。
大規模災害時に公助が実際に機能するのは10日以上経ってからとの認識で、それまでの共助仕組み作りの重要性を住民に理解してもらう事が大切である。
・高層住宅への補助発電機の設置指導と設置支援
マイクでのお知らせがよく聞こえないことが多い。各家庭内に設置できる方法があると良いのでは無いでしょうか。
時間帯や曜日によって、家族の居場所や避難の仕方が様々…あらゆる想定をシミュレーションして家族や近隣で話し合っておく必要がある
密状態を避けるため等の理由で避難所への非難は初めから選択肢にはない人は多いと思います。食料の配布や給水など自宅や車で非難をしている人への情報共有は必要だと思っています。
これまで考えが甘かったので、市の取組をよく理解し対策したい。

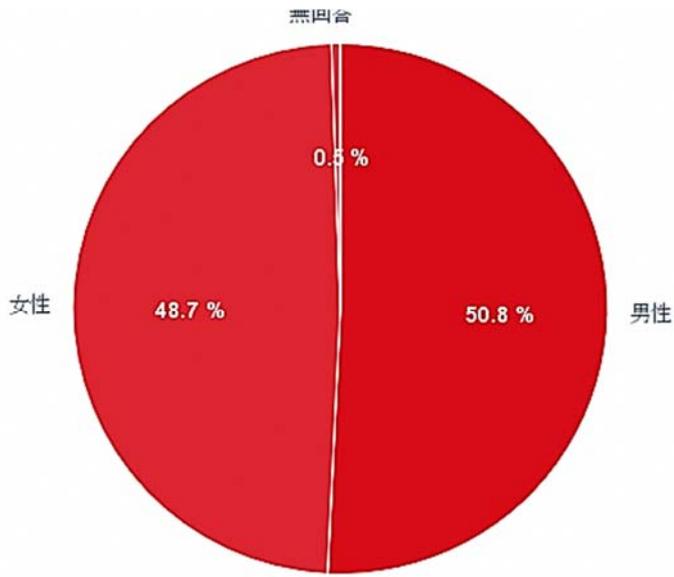
Q13 あなたのお住まいの小学校区は次のうちどれですか。（わからない場合は、ご自宅に一番近い小学校を選んでください。）

n=197



【基本情報】

○性別



○年齢構成

